

卒業研究2

責 任 者・コーディネーター	薬科学講座構造生物薬学分野 阪本 泰光 教授（成績とりまとめ担当） 生物薬学講座機能生化学分野 中西 真弓 教授 病態薬理学講座薬剤治療学分野 三部 篤 教授 医療薬科学講座衛生化学分野 杉山 晶規 教授 臨床薬学講座情報薬科学分野 西谷 直之 教授		
担当講座・学科(分野)	薬科学講座（創薬有機化学分野、天然物化学分野、構造生物薬学分野、分析化学分野）、生物薬学講座（機能生化学分野、生体防御学分野）、病態薬理学講座（分子細胞薬理学分野、臨床医化学分野、薬剤治療学分野）、医療薬科学講座（創剤学分野、薬物代謝動態学分野、衛生化学分野）、臨床薬学講座（臨床薬剤学分野、情報薬科学分野、地域医療薬学分野、薬学教育学分野）		
対象学年	5, 6	区分・時間数 (1 コマ 2 時間換算)	実習 120 時間 (60 コマ)
期 間	通期		
単 位 数	6 単位		

・学修方針（講義概要等）

卒業研究1で学んだ基礎的な技術や知識をもとに、より専門的な研究を実施する。この科目を通して、医療における問題点を抽出し、科学的・論理的に問題を解決するための研究マインドを育む。研究を実施する過程で遭遇する様々な困難を克服することで、問題解決能力を身につけるために習練する。研究室における対人的な関係から協調性を養成し、後輩の指導を通じて後進の育成の機会を得る。さらに、各分野が主催する研究セミナーに参加して、発表技能、態度、コミュニケーション技術や生涯学習の重要性を学ぶ。卒業研究に関する論文作成、口頭発表などを通して実験結果のまとめ方やプレゼンテーションを行う能力も身につける。

・教育成果（アウトカム）

卒業研究を実施することで、課題発見能力、問題解決能力や生涯学習への意欲が身につく。また、研究室に所属することで、コミュニケーション能力や社会性を身につけることができる。
(ディプロマ・ポリシー：2, 5, 7, 8, 9, 10)

・成績評価方法

卒業研究全般における態度（研究に臨む態度、研究室の方針やルールへの順守、下級生の卒業研究の進捗に配慮する姿勢、各10%で合計30%）、問題解決能力の向上（10%）、英語論文の読解（5%）、学会等での発表（5%）、学部主催の卒業研究発表会における評価（25%）、卒業論文（25%）で評価する。これらの評価は次ページの評価表によって行われる。

・特記事項・その他

担当分野からの指示が記されている場合は、それに従うこと。記載がない場合は、各実習時期に担当分野の指示に従うこと。研究の進捗に応じて、担当者から指導や助言を受ける。
各コマに対して、事前学習（前回の研究記録の見直しや関連情報の収集など）に30分、事後学習（研究記録の作成など）に30分程度を要する。具体的な事前・事後学習の内容は、担当者から指示

を受ける。さらに、卒業研究発表会の準備に要する時間として 30 時間程度、卒業論文を作成する時間として 60 時間程度を必要とする。

実務家教員担当授業 有

実務家教員の実務経験の内容及び授業との関連

国内外の研究機関における研究員の経験を有する教員が、専門領域に関する研究を指導する。総合病院や薬局における薬剤師、がん薬物療法専門薬剤師としての実務経験を有する教員が、専門領域に関する研究や事例を交えた実践的な教育を行う。

	5	6	9	10	特記事項 (加点可)
研究に 臨む態度 (実験研 究・調査 研究)	研究を遂行 できなかった。	研究倫理の遵 守に努め、指 示に従って研 究を行うこと ができた。	研究に関する指 示を聞きつつ、 指導者との意見 交換をして研究 に取り組むこと ができた。	指示をよく聞 き、時に自らア イディアを出し て研究に従事し た。	よりよい研究にし ようとする前向き な気持ちをもって 研究に従事した。 (2点まで)
研究室の 方針やル ールの順 守	研究室の機 器などの保 守、清掃、 整理整頓の ルール順守 ができてい ない。	研究室の機 器などの保 守、清掃、 整理整頓な ど基本的な 研究室のル ールの順守に 努めた。		研究室の機器な どの保守、清 掃、整理整頓 の分担などの基 本的な研究室の ルールを順守し て研究を進める ことができた。	研究室の機器な どの保守、清掃、 整理整頓の分担 などの基本的な 研究室のルール の改善などの提 案ができた場合 は加点可(2点 まで)。
下級生の 卒業研究 の進捗に 配慮する 姿勢*	下級生とコ ミュニケー ションでき なかった。	下級生とコ ミュニケー ションしたり、 指導したりす ることに努め た。	下級生の指導 にあたり、下 級生の卒業研 究の向上にも 配慮した。	下級生の指導に 熱意をもってあ たり、次世代を 担う人材を育成 する意欲と態度 が感じられた。	
問題解決 能力の向 上や概略 評価	担当教員が概略評価を行う。				
		3	4	5	
英語文献 の読解	英語の文献 の読解に取り 組むことが できなかった。	英語の文献 の読解に取り 組むことが できた。	英語文献を読 解することが できた。	自ら英語文献を 検索して読解す ることができ た。	
自己研鑽		学会・講演会・研究会等に参加し自己研鑽に努めた。口頭発表5点、ポスター発表4点、聴講型の会の参加は1回につき1点を目安とする。(5点まで)			
		15	20	25	
卒業研究 発表会に おける発 表の評価		評価者が採点を行う。			
	**				
医療や薬 学におけ る研究成 果の位置 づけを含 めた卒業 論文の執 筆	卒業論文を 提出できな かった。	卒業論文は おおむね定 められた形 式に沿って 書かれてい た。	卒業論文は定 められた形 式に沿って 書かれ、自 分が行った 研究方法や 実験結果を 正しく説明 できていた。	卒業論文は定 められた形 式に沿って 書かれ、医 療や薬学に おける研究 成果の位置 づけについて も触れられ ていた。	

*本項目は、ディプロマ・ポリシー10の「次世代を担う医療人を育成する意欲と態度を有する。」を念頭において設けた。

**卒業論文を提出しなかった場合は単位を認定しない。